

- 1 対象 第2学年1組 15名
- 2 日時 令和5年11月20日 月曜日 第3校時
- 3 場所 L-pod 31A
- 4 単元名・教材名 第2部「中世の日本と世界」第2章「中世の国家・社会の展開」  
第4節「蒙古襲来と幕府の衰退」  
教科書 『日本史探究』（実教出版）p100~p101  
副教材 『図説 日本史通覧』（帝国書院）p112
- 5 単元について

○教材観

この単元では、鎌倉時代の外患である蒙古襲来について、モンゴル帝国の勢力拡大から2度にわたる日本遠征の中で鎌倉幕府と御家人がどのように対応し、モンゴル軍を撤退させたかを学ぶことができる。そしてこの蒙古襲来が戦いだけでなく、その後の鎌倉幕府と御家人にどのような影響を及ぼしたかを理解し、得宗の専制や御家人の困窮から鎌倉幕府の衰退についての表現を目指す単元である。

そして本時は蒙古襲来を取り扱い文献や地図から情報を読み取り、鎌倉幕府とモンゴル帝国や東アジアとの関係から蒙古襲来に至った背景や要因について理解を深め、判断し、表現する能力が求められる。

蒙古襲来が中世の日本社会に与えた変革と、その後の社会への影響を理解し、生徒たちにとって歴史的な出来事の深い意味を提示できる教材である。

この単元を通じて、蒙古襲来を通して国家と社会がどのようにして協力し、変容していったのかを学ぶ。その転換点となる本単元において、授業での学びから時代の転換点における要素とその理由を整理して理解し、判断できるように必要な資質・能力を養いたい。

○生徒観

本講座の生徒たちは、調べることや、考え、自分の意見を交流することを苦にしない生徒が多いように思われる。生徒たちは調査や情報収集を苦にせず、むしろ積極的に行うことができる。授業で取り上げられるテーマに対して、関心を持ち、それを深めたいという強い意欲を感じる。

また、解説を聞くだけでなく、自分なりに情報をまとめ、表現しようとする姿勢が見受けられる。単に受動的に授業を受けているわけではなく、学んだことを吟味し、自分の言葉で整理・表現することを大切にしていると思われる。グループワークではコミュニケーションも盛んで、意見の交換を通じてお互いに考え合うことができる。課題に対して協力し異なる視点からのアプローチを共有することで、より幅広い視野を養い、深化できる講座である。

○指導観

講座では、生徒たちに対して積極的な情報収集と分析、そして判断力を養う指導を重視する。蒙古襲来について生徒たちが情報をまとめ、分析し、判断できる力を引き出すための指導方針を以下に示す。

- 生徒たちには、蒙古襲来に関する多様な情報源から適切な情報を選別し、整理するスキルを養っていく。
- 教材や文献を活用しながら、重要な事実や背景を見逃さず把握する能力を育む。
- 取り上げる事象に対して、単なる事実の羅列ではなく、その背後に潜む原因や影響を分析するスキルを重点的に指導する。
- 生徒たちが歴史的出来事を多面的に理解し、蒙古襲来が日本社会に与えた変革を洞察する能力を育てる。
- 生徒たちには、情報の整理と分析をもとに判断を下す能力を養う。
- 自分の意見を根拠立てて形成し、他者と異なる視点を尊重しながらも自己の立場をしっかりと表現できるようにサポートする。

6 単元目標

知識・理解

- ・鎌倉時代の歴史的な出来事や社会構造について、包括的な知識を獲得する。
- ・蒙古襲来などの重要な出来事に関する背景や影響について深い理解を築く。

思考力・判断力・考察力

- ・資料からの読み取りや、鎌倉時代の出来事を比較して、蒙古襲来や御家人の困窮について整理し、自分なりに考えを表現する。
- ・歴史的な出来事に対して批判的思考を養い、その影響や意義を考察する能力を向上させる。

主体的に学ぶ姿勢

- ・日本とモンゴル帝国や南宋との関係などに着目して、それらが日本に与えた影響やその後の鎌倉幕府の政治を関連づけて見出すことができるようにする。
- ・教材や資料を主体的に活用し、探究しようとする姿勢を養う。

7 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 鎌倉時代の政治や外患についてモンゴル帝国や朝鮮半島との関係に着目して理解している鎌倉幕府の成立について源平合戦や理解している。</p> <p>② 御家人の困窮が鎌倉幕府の衰退につながったことを理解している。</p>	<p>① 絵巻物や写真などのなどの資史料をもとに、鎌倉時代の戦いや様子について考察し、表現している。</p> <p>② 蒙古襲来について資料をもとに考察し、判断の根拠を示して表現している。</p>	<p>① 蒙古襲来に際して、中国大陸や朝鮮半島との関係に着目して鎌倉幕府の判断について見出そうとしている。</p> <p>② 蒙古襲来後、御家人の困窮が顕著になったことに関してこれまでの学習と関連づけて理解、表現しようとしている。</p>

② 指導と評価の計画 (全2時間)

次	時	学習内容・学習活動	評価規準 【評価の観点】 〈評価方法〉
三	4 本時	<p>○モンゴル帝国の形成</p> <p>○蒙古襲来</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モンゴル帝国の形成や勢力拡大を東アジアとの関係を整理して理解する。</li> <li>・蒙古襲来にあたり鎌倉幕府がどのような対策を講じ、元軍を撤退させたのかについて理解する。</li> <li>・元と東アジア、日本と東アジアとの関係を整理して判断し自分の考えを表現する。</li> </ul>	<p>◇モンゴル帝国の形成とその拡大について理解している。 【知識・技能】</p> <p>◆蒙古襲来にあたり鎌倉幕府がどのような対策をとったか、情報をもとに判断して表現できる。 【思考・判断・表現】</p> <p>◇蒙古襲来にあたり鎌倉幕府の対策を自分ごととして捉え探究しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】</p>
三	5	<p>○得宗の専制</p> <p>○御家人の困窮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元寇後の鎌倉幕府の政治について登場する人物と得宗との関係に着目して理解させる。</li> <li>・御家人が困窮した要因を既に学習した内容と関連づけて理解する。</li> <li>・御家人の困窮を救済しようとした鎌倉幕府の対応とその対応の顛末を表現できる。</li> </ul>	<p>◇蒙古襲来前後の鎌倉幕府において得宗の専制がなぜ起きたかを表現できる。 【思考・判断・表現】</p> <p>◇鎌倉時代後期においてなぜ御家人が困窮していくのかについて複数の理由を見出そうとする。 【主体的に学習に取り組む態度】</p>

9 本時の目標

◎モンゴル帝国の勢力拡大に着目させて、仮説を比較して判断する活動や元寇に対して鎌倉幕府がどのように対策したのかに関する解説を通して、元と日本の関係やそれに伴う歴史的な用語整理し、理解することができる。

- モンゴル帝国の勢力拡大や元寇に対する鎌倉幕府の動向を理解できる。
- 資料から情報を読み取り、それを自分の意見として表現できる。
- 積極的に活動に取り組み、意見を表することができる。

10 本時の展開 (1/2)

過程	学習内容・活動	指導上の留意点	評価 【評価の観点】 (評価方法)
導入 5分	○「蒙古襲来絵詞」を見て、今日は蒙古襲来について学習するという意識を持つ。 【これは何の様子を表しているでしょう】	○出欠を確認する。 ○指名して質問する。	

MQ : 鎌倉幕府は2度にわたる蒙古襲来に際して、どのような対応をしたのだろうか

展開1 10分	<p>〈展開1〉モンゴル帝国の建設から文永の役</p> <p>○解説を聞いて、答えを確かめながらモンゴル帝国の建設から文永の役に至るまでの歴史について理解する。</p> <p>「チンギス=ハン」 「金」女真族が建てた王朝 「フビライ」、「元」</p> <p>「北条時宗」 「文永の役」1274年 「てつほう」元軍が使用した武器 鑄鉄製の玉に火薬を詰め破裂させ人馬を混乱させた</p>	<p>○適宜スライドを利用して解説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇〇=ハン」は君主の称号であったと意識させる。</li> <li>・「金」が日宋貿易に関わっていたことを振り返る。</li> <li>・高麗と元の関係・高麗と日本の関係について触れる</li> <li>・幕府の中心は執権北条時宗だと意識させる。</li> <li>・絵を見ながら元軍と御家人の戦い方の違いに着目させる。</li> </ul>	<p>◇モンゴル帝国の形成とその拡大について理解している。</p> <p>【知識・技能】 〈活動観察〉</p>
------------	---	--	---

<p>展開2 25分</p>	<p>〈展開2〉探究活動 ○基本4人のグループをつくる。 ○グループごとに授業プリント下線部「」に関して用意した仮説のメリット・デメリットを考え、プリントに記入する。</p>	<p>○本時の活動は正しい答えはなく、情報を整理して比較して判断する部分、それを表現できることが大切だと再確認する。 ○生徒の活動が止まっていると感じたらそのグループごとにヒントやイメージを伝え活動させる。</p>	<p>◇活動に際して主体的に考え、それを意見として共有しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 (ワークシート・活動観察)</p>
<p>SQ : あなたが鎌倉幕府の執権北条時宗だったら、文永の役の後、どのような対策を優先するだろうか</p>			
<p>展開3 10分</p>	<p>A元に朝貢して、服属国となる B元の再度の襲来を警戒して、九州北部の防衛を強化する C元の再度の襲来を防ぐため、元軍の拠点だと思われる高麗を先に攻める</p> <p>○グループごとにメリットデメリットを全体に共有する。 ○グループでの活動や全体で共有された意見をもとにABCを比較して自分の考えを選び、理由を合わせてプリントに書き込む。</p> <p>○問いに対しての自分の答えを発表する。</p> <p>〈展開3〉文永の役後の幕府の対応 弘安の役 ○解説を聞いて、答えを確かめながら文永の役後の動向や弘安の役について理解する。</p> <p>「異国警固番役」鎌倉幕府は蒙古襲来に備え九州北部</p>	<p>○生徒の意見の良い点、気づきを全体に共有する。 ○机間指導で生徒の答えを読み取り、全体で共有する意見を探す。</p> <p>○共有する答えの良いポイントを伝える。(例 情報をしっかりと比較している当時の様子を考えられている)</p> <p>○自分の考えに関して理由をつけ、他者に表現できるようにする。</p> <p>○実際に幕府はどのような対応をしたのか、それはなぜそのような対応をしたのかについて解説する。</p> <p>○スライドを利用して解説する・「番役」という言葉に着目</p>	<p>◇与えられた資料をもとに要素を理解しながら分析し判断できる 【思考力・判断力・考察力】 (ワークシート・活動観察)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">十分満足できると判断される状況</div> <p>○提示された情報を理解し比較しながら自分の意見に根拠を示しながら表現しようとしている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">努力を要する状況への手立て</div> <p>○グループや全体で、他者の視点や意見に触れる機会を設け、その意見への気づきを得て、参考にしながら自分の意見を考えられるように指導する。</p>

	<p>を防備するために編成した番役 「石塁・石築地」文永の役後博多湾沿いに構築された防塁 「弘安の役」1281年 「元寇」</p> <p>○解説から分かったことをもとに本時の問いについて考える。</p>	<p>させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真で防塁のイメージを持たせる。</li> <li>・弘安の役では東路軍と江南軍に分かれていたことを地図で見せる。</li> </ul>	
まとめ	<p>○本時の学習に対する振り返りをする。</p> <p>○次時の学習について見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蒙古襲来後の鎌倉幕府</li> <li>・武士の困窮</li> </ul>	<p>○2度の蒙古襲来の後もモンゴル軍の日本遠征が計画されていたことや、それに伴い鎌倉幕府は警戒を継続していたことを伝える。</p> <p>○本時の活動は正しい答えはなく、情報を整理して比較して判断する部分、それを表現できることが大切だと再確認する。</p>	

〈第2章 中世の国家・社会の展開〉 蒙古襲来と幕府の衰退 教 p100~

本時の問い 鎌倉幕府は2度にわたる蒙古襲来に際して、どのような対応をしたのだろうか

◇蒙古襲来

○モンゴル帝国の建設

- ・ 13世紀初め、モンゴルの遊牧民を (1. ) が統一  
 ※「ハン」というのは遊牧民の君主の称号
- ・ 後継者たちはロシア南部の国や中国北部にあった女真族の王朝である金を滅ぼし、  
 モンゴル帝国を形成
- ・ チンギス=ハン(2. ) は東アジアに拠点を置き、都を大都(北京)  
 へ移す(1267年) 国号を(3. )とした(1271年)  
 → 南宋を中心に東アジア諸国への侵攻を図る
- ・ 侵攻に耐えかねた高麗は元に服属する → 高麗の三別抄(高麗の国軍)の抵抗  
 → 高麗の使節を使って日本に服属・朝貢を要求
- ・ 8代目執権(4. ) は朝貢の要求に無回答  
 → モンゴルの襲来を覚悟  
 → 九州に所領をもつ御家人に九州北部の防備を指示

○モンゴルの日本侵略

- ・ フビライは1274年日本に侵攻を決断  
 → 元は属国である高麗との連合軍で対馬・壹岐襲撃、ついで博多湾岸に上陸  
 → 鎌倉幕府は九州に所領を持つ御家人を動員して対抗したが、元軍に大苦戦
- ・ 苦戦した要因は火薬を使って人馬を混乱させる(5. )という武器や  
 一騎打ちが主流であった日本に対し、元軍は集団戦法を得意  
 としていたこと

しかし 御家人の奮闘により元軍も予想以上の損害を

受け、撤退することとなった  
 この1度目のモンゴルの日本侵略を(6. )という

◎文永の役を受けて、鎌倉幕府はどのように対応したのだろうか



## ○文永の役後の動き

- ・フビライは直ちに日本への再攻撃を命令 **しかし** 南宋との戦いに注力したため遅延
  - 元は2度に渡り、日本へ朝貢を要求
  - 北条時宗は交渉に応じず、元の使者を2度とも斬首
  - 再度の元軍の襲来を確信

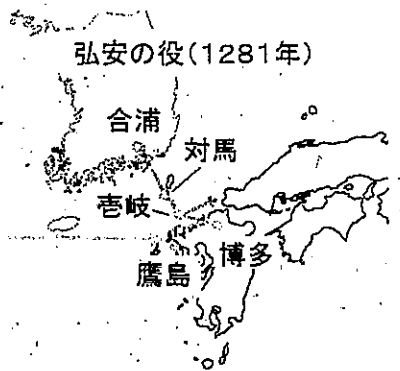
① 九州北部の防衛強化を指示 ② 高麗征伐の計画を発表 (のちに断念)

- (7. ) の強化 …幕府が九州北部を防備するために編成した番役  
→ 後には非御家人も動員された
- (8. ) を構築 …博多湾沿い東西 20km に及ぶ防御施設



## ○2度目の襲来

- ・1279年に南宋を滅ぼした元は1281年に再度日本に侵攻
- ・東路軍(約4万人 元と高麗の連合軍)と江南軍(約10万人 旧南宋軍)が襲来
  - 先着した東路軍は石塁のため上陸を阻まれ、苦戦
  - 江南軍が合流したが、農具しか持っていないような移住者を含んだ軍隊であった
  - ⇒ 東路軍と江南軍が合流し、体制を整えるために船に戻ったところ大暴風雨が元軍の船団を襲い大損害を受ける
- ・元軍の撤退 → この2度目のモンゴルの日本侵略を(9. ) という



そして 2度におたる蒙古襲来を(10. )と呼ぶ



◎あなたが鎌倉幕府の執権北条時宗だったなら、  
文永の役の後、どのような対策を優先するだろうか

○A～Cの策のメリット・デメリットを埋めよう

A 元に朝貢して、服属国となる

ヒント モンゴルはヨーロッパ、アジア、ロシアなど広大な貿易を行っていた



メリット	デメリット
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 元に朝貢し、服属するということは、日本が元の臣下になるということである。そのため屈辱として捉えるものが出てくる可能性がある。</li> </ul>

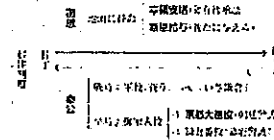
B 元の再度の襲来を警戒して、九州北部の防衛を強化する

ヒント 文永の役で御家人は健闘したが、なぜ元軍が撤退したかは明確でない

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 防衛を強化することによって、文永の役よりも体制を整えた状態で元軍を向かい撃つことができ、元軍次第ではあるが、撃退の可能性が高まる。</li> </ul>	

C 元の再度の襲来を防ぐため、元軍の拠点だと思われる高麗を先に攻める

(ヒント 御家人は鎌倉将軍のために戦い、その恩賞は土地だった)



メリット	デメリット
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 戦には武器や船などの装備が必要のため、御家人たちに多大な労力や費用を求めることになり、御家人が疲弊する可能性がより高まる。</li> </ul>

◎あなたはA～Cどの策を優先して選びますか理由も合わせて記入しよう

理由の例 : 情報を比較して考えたこと

当時の状況を考えてこと

AからCの中でその1つを判断した材料

記号	理由